

「2016東海村成人の集い」

飛躍 ～新たなる未来へのステップ～

【実行委員からのメッセージ】

今年のテーマは「飛躍～新たなる未来へのステップ～」です。このテーマには、それぞれの未来へ向けたステップアップと、更なる飛躍をしていきたいという気持ちを込めました。

私たちは“二十歳”という節目の年に、更なる飛躍と今まで以上のステップアップをして、未来に貢献できる大人になりたいと考えています。

みんなで明るい未来に進んで行きましょう！

■**実行委員**(写真前列左から)若松大貴、岡崎博樹、山田基(後列左から)大瀧夏弥、秋庭優斗、黒澤祐司、飛田建城



- 期 日 1月9日(土)
- 時 間 午前10時30分～正午
(午前9時30分受け付け開始)
- 場 所 東海文化センター
- 問い合わせ 生涯学習課生涯学習担当(中央公民館内 ☎282-3329)

ふるさと歴史訪 ー自然を探してー

東海村を流れ下った 火砕流

東海村自然調査団副団長

二階堂 章信

自然がつくるものの中に、時として不可解なものが見つかることがあります。

一般に、地層と地層の境界は、平らな面で接しています。それは地層が、海や湖、川などの水中で堆積して形成されるために、平らになるのです。堆積した後、地殻変動などで地層が傾斜することはありますが、その場合も、地層と地層の間は平らな面で接したままです。

この地層の境界に凹凸がある場合は、「不整合」と呼ばれる状態で、上位の地層と下位の地層の間に、時間的な隔たりがあるとされています。

下の写真は、須和間霊園入口の南側の崖です。地層の境界に激しい凹凸が見られますが、不整合ではありませんでした。この境界の上下の地層から出てくる化石に時代的な変化がないことや、隣接地域の調査から、不整合ではないことが分かったのです。では、不整合ではないのに、なぜ凹凸があるのでしょうか？



この地層はどうして凹凸なのでしょう？

この凹凸した境界をよく観察すると、下位の泥岩層の表面に、たこつぼの断面のようなへこみや、スコップで鋭くえぐり取ったようなへこみが連続していて、確かに不整合の凹凸とはちよつと違います。

境界のすぐ上の地層は、軽石を多量に含む粗い粒の砂岩で、明らかに火山噴出物が流されてきたものです。しかも、境界の凹凸の形状や、粗い粒の砂岩中の堆積模様などから、西の方から流れてきた堆積物だということが分かります。

東隣にあるひたちなか市の部田野付近や、阿字ヶ浦海岸の崖には、昔、石材として利用されていた「軽石質凝灰岩層」と呼ばれる硬い地層が露出しています。この地層こそ昔の火山の火砕流が固まったもので、ここまで流れてきたのです。

この火砕流が、当時は海の中だった東海村を、西方からものすごい勢いで流れ下り、海底の泥岩を削りました。そのときに来た凹凸の痕が、偶然にも須和間の崖に残されていたのです。